

前立腺疾患について ~ 前立腺がんを中心に ~

にしひ泌尿器科皮膚科クリニック

院長 西 昇平

若松区下原町 3 23

電話：752 5551

天皇陛下の前立腺がん手術を契機として前立腺がんに対する国民の関心が高まって参りました。前立腺とは男性だけにあるクルミ位の大きさの臓器で膀胱の下方で尿道を取り囲む形で存在しております。良性の前立腺肥大症は加齢に伴い発生し 60~70 歳台に最も多く認められます。これは尿道周囲腺、いわゆる前立腺内腺の肥大であり、症状は夜間頻尿に始まり徐々に尿が出にくくなり残尿が発生してきます。さらに進行してくると尿が出ない状態（尿閉）が発生し放っておくと腎臓にも悪影響を及ぼし腎不全を惹起する恐れもあります。

一方、前立腺がんは前立腺外腺に発生するために前立腺肥大症のような症状が出にくいのです。一昔前までは前立腺がん患者の約 3 割が診断時にはすでに骨転移などを有する進行例でありました。最近の前立腺がん患者数の増加と罹患率の増加が注目されております。これは発生率そのものが上昇していると考えられており、罹患率は 20 年前の 2~3 倍であり、今後もその増加率が大きいであろうと予測されております。死亡率も上昇しており、平成 9 年の年間死亡者数は 7000 人を突破しています。そこで、早期発見の必要性・重要性が叫ばれており、前立腺特異抗原 (PSA) により前立腺がんを発見することが大事になります。前立腺がんの集団検診では受診者の 1% ががんが発見されるとされ、この発見率の高さは特筆されることです。この PSA は採血により簡単に測定できますし、併せて前立腺の診察（直腸指診）と超音波検査（経腹壁または経直腸にて行う）を組み合わせることが一般的です。

前立腺がんが疑われた場合には組織診断(前立腺針生検)を行い診断を確定することになります。前立腺肥大症につきましては診療ガイドラインも整備されており治療には薬物療法、内視鏡手術そして高温度治療や尿道ステント留置などの低侵襲手術がありますが詳細は泌尿器科に相談されて下さい。一方、前立腺がんの治療は従来からのホルモン療法に加えて、早期前立腺がん患者の増加に伴い根治的手術や放射線療法が多数行われるようになり、治療成績や生存率の向上に寄与してきております。前立腺疾患にはこのほかに前立腺炎もありますので、排尿症状のある方はもちろん、症状のない方も 50 歳を過ぎましたら前立腺の検診を是非受けるようにして頂きたいと思っております。